

2023
9月

・・・長寿会だより・・・^③

明新地区長寿会連合会
発行者 黒川賢治

令和5年8月22日「お楽しみ会」開催（ディホーム・明新長寿会の共催講演会）

* * 「まちなかの歴史を活かす」 * *

講師「木曜お堀の会」代表 平野和夫氏（語り部）による、新幹線開業に向かって、福井駅周辺で取組んでいる「みんなで誇れる“歴史いっぱい”のまちなか」を目指した取組みについて講演を頂きました。



「木曜お堀の会」は、福井城址を中心に街を盛り上げる活動をしている市民団体です

福井の貴重な文化、歴史的財産(福井震災、福井城址)を更に深掘りし、保存活用を進めています。

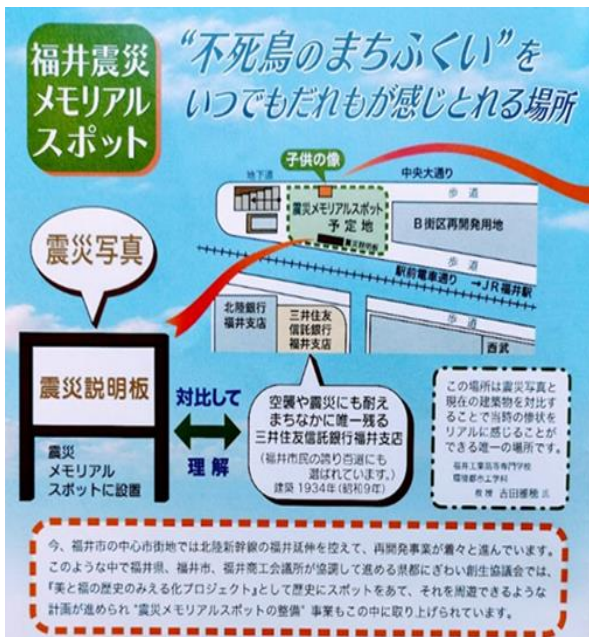
「語り部」活動から見える福井空襲、福井震災の状況とその後について講演頂きました。

又、井上満枝氏による紙芝居「片腕の彫刻家」の演出で、生きる勇気と助け合い、福井震災の継承と日常での意識感覚の必要性を再認識できました。

「第一部」 「震災メモリアルスポット」の整備（講演 平野和夫さん、井上満枝さんの

お話）

「福井震災の記憶を子供たちへ」平野和夫さんがライフワークとして取組んでいる活動です。福井駅西口の再開発エリア「三角地帯」のB街区西端にある「三角広場」に震災の記録を記した看板を設置し、防災教育や観光に生かす「震災メモリアルスポット」の整備に取り組んでいます。



震災説明板

三井住友信託銀行福井支店

震災で倒れなかった三井住友信託銀行が写真の左に移っています。

下の写真は、このスポットから駅前電車通りを挟んだ向かい側に現存する震災の被害を唯一免れた建造物を

「三井住友信託銀行福井支店」が見えます。

す。

子供の像 = 地震で倒壊した映画館の下敷きになり、片腕を失った美術教諭加藤恒勝さんが手がけた子供の像がある

第二部 「著作権と使用許可」 福井地震発生直後の様子を撮影したカール・マイダンス氏の写真

◆地震発生直後の様子を撮影したカール・マイダンス氏の写真

地震により大きく傾いた大和デパート、その右奥には猛火に包まれた市街地と緊迫状態の中で逃げ惑う市民が写る。
震災当日に来福した米国の著名な報道カメラマン、カール・マイダンス氏は震災に遭遇。撮影した写真は、米国の『LIFE』誌(7/12号)に掲載され世界中に報道されました。
※福井震災を撮影したカール・マイダンス氏の写真(199枚)を見ることが出来ます。
「Google Arts & Culture」内の「Fukui Earthquake」を 🔍 検索



Carl Mydans/The LIFE Picture Collection/Shutterstock

※この震災写真の著作権取得交渉にあたっては、福井ひかり法律事務所 弁護士 山浦光一郎氏の協力をいただいています。(著作権取得/2022年12月27日)

アメリカの写真家カール・マイダンス (Carl Mydans 1907年5月20日 - 2004年8月16日) は、1936年から雑誌「ライフ」のカメラマンとして欧州やアジアで活動した人物。

著作権を持つ米国の会社と交渉し、このうち十三枚の使用許可を得て、広場の看板に使用又、博物館や学校で展示する活動をしている。

写真家カール・マイダンスは、「メイド・イン・フクイ」の絹織物で知られた繊維の町・福井市を取材中に震度7の福井地震(1948(昭和23)年6月28日)を体験した。マイダンスは地震の発生直後からシャッターを切った(199枚)。この時の写真は米雑誌「LIFE(1948年7月12日号)」の特集記事「JAPAN: Worse than B-29s」として世界中で報道された。

第三部 福井震災の記録 1948年(昭和23年)6月28日17時13分過ぎ(現時刻では16時13分過ぎ)です。



震源地/福井県北部(坂井市丸岡町磯部) 福井地震 M7.1(当時震度6)(この地震で気象庁の震度階数に「震度7」が加えられた。現行の震度7に相当します)

死者3,769人 家屋全壊、焼失40,035棟。震源が10kmと浅く、被害は福井市を中心に丸岡～吉崎に、九頭竜川流域の沖積平野の柔らかい地盤と戦後のバラック小屋が多かった。

10秒もしないうちにほとんどの家屋が倒壊(倒壊率は80%以上に)(福井市では100%という地域もあった)直後に市内29箇所から火の手があがり、市の4台の消防車も出動するが水道破損で消火活動ができず、家屋に閉じ込められた多くの命が奪われた。

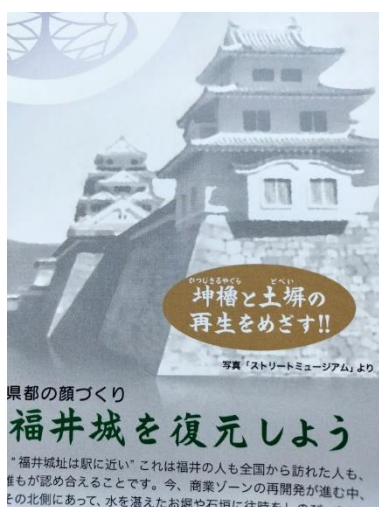
1950年には木造建築の建築基準法が制定された。



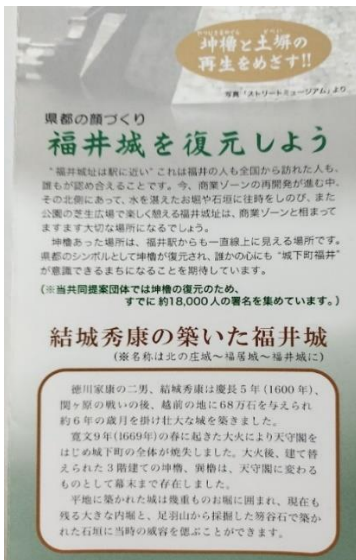
私達は、震災メモリアルスポットを提案し整備を進めています

福井市は 1945（昭和 20）年 7 月 19 日、アメリカ軍の B29 爆撃機による大空襲で市街地の 96%が焼け野原となった。それから 3 年後の昭和 23 年 6 月 28 日午後 4 時 13 分 復興したばかりの福井を今度は大地震が襲う。二度の災禍を乗り越え、不屈の精神で復興した福井市の歴史を踏まえ「不死鳥精神を感じ取れる場所。震災メモリアルスポットにふさわしい」場所です。

第四部 坤櫓と土堀の再生を（福井城の復元を）



ひつじさるやぐら
坤櫓は福井城の南西（方位図の）に位置した櫓ですのでこの用に名付けられています
 福井駅前の恐竜をバックにスナップ写真を撮る、そこから県庁方面を眺めるお堀と石垣が望見できる



この石垣の端「神櫓と土塀」を復元再生しよう活動している「共同提案団体」に入っています



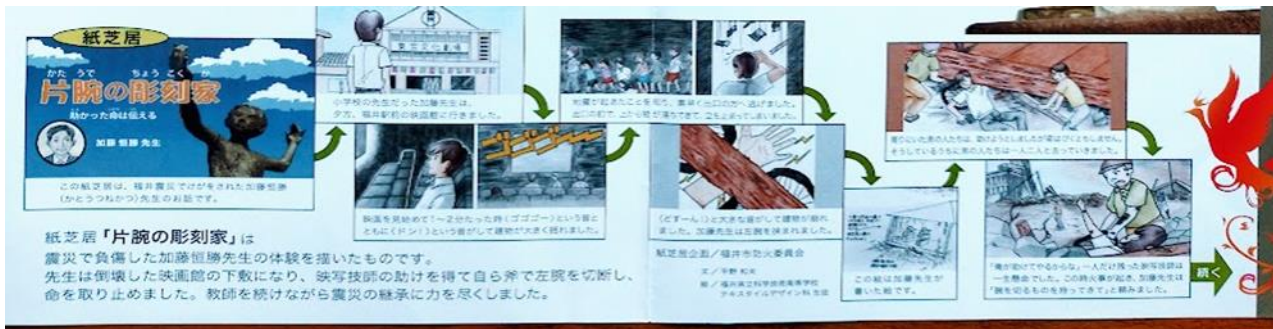
写真家のカール・マイダースは福井地震遭っている一人です。食堂で珈琲飲んでた時だそうです。

第五部 紙芝居「片腕の彫刻家」

演出 木曜のお堀の会 井上満枝さん(語り部)

(文)平野和夫

(絵)県立科学技術高等学校テキスタイルデザイン科生徒



私は「福井震災の記憶」を子供達へつなげようする活動に紙芝居「片腕の彫刻家」作成しました。



紙芝居を熱演して
くださる語り部の
井上満枝さんです

加藤恒勝さんの被災
状況と助ける
人々の心理状況ま
でよく伝わります。
感動します



私達はこの紙芝居を学校や施設などを訪問し、福井震災を教訓とする助け合いや心の備えを伝承しています